

# 石見銀山遺跡の魅力を

## より多くの人の人へ！

越本修美さん・信視さん



▲石見銀山をガイドする修美さん(右)と信視さん(龍源寺間歩入口にて)

### 観光ガイドとして

「石見銀山に訪れた人の喜ぶ顔が見たい」と、修美さんと信視さんは言います。

修美さんは石見銀山の良さをたくさんの人に知ってもらいたいと平成24年から観光ガイドをしています。

修美さんが観光ガイドとして気をつけていることは、観光ガイドを『してあげる』ではなく、『させてもらう』という心構えだと熱く語ります。

「観光ガイドを『させてもらう』という心構えを持つことで、常に謙虚さを忘れずに全力で取り組むことができる。一人でも多くの人に石見銀山の魅力を伝えたい」と言います。

現在は夫婦で石見銀山の観光ガイドを行い、石見銀山のPR活動に忙しい毎日を送っています。

観光ガイドをする際に心掛けていることは相手の要望や状況に応じて、観光コースを考えることです。

例えば高齢の方であれば階段の少ない場所を重点的に見てまわるコースを提案したり、パワースポットに興味がありそうな方には修美さんおすすめの佐毘売山神社を案内したりします。

先日、佐毘売山神社を案内したかたは「何か力を感じた。石見銀山にこんな場所があることを知らなかった。佐毘売山神社に連れてきてもらえてよかった」とうれしそうな様子だったとのこと。

「観光ガイドをしていて一番うれしいことは、案内した方々から感謝の言葉をもらうこと」と二人は言います。

また「訪れた人が喜んで、生き活きとして帰られる姿

が私たちにとって一番の励みになります」とうれしそうに話します。



▲佐毘売山神社

### 空気のよい場所を求めて移住

越本さん夫妻は平成23年6月に大田市に移住しました。

夫妻が移住した理由は、信視さんの体調不良がきっかけで、空気のよい環境で過ごしたいと考えたからです。

インターネット等で情報収集をし、縁があり「おおだ定住支援センター」(定住推進室内)に相談し、大田市内の空き家をいくつか見学することになりました。

た。その中で五十猛町の空き家に出会いました。畑があり、海が近いこともポイントとなり、大田市を移住先に選びました。

「大田市のよいところは地域との関わりが密接なところ」と修美さんは言います。

地域の受入体制もあり、移住当初から、自治会の行事に積極的に参加する中で、人脈も増えました。

畑で作った野菜をおすわけすると、様々なものをいただくこともありました。

そして地域との関わりの中で石見銀山を知るきっかけがあり、その魅力に惹かれていきました。

移住するまで石見銀山のことを全く知らなかったため、地域との関わりがなければ、観光ガイドをするとはなかったはずですが、

また「観光ガイドをしていなければ、石見銀山でのたくさんのお会いもなく、淡々とした日々を過ごしていたでしょう」と語ります。

移住者の先輩として、「地域との関わり合いが好きな人」には大田市がおすすめと語ります。

### 移住者の先輩として

移住してきた当初は不安



▲五十猛町の自宅横の畑で

移住前から畑で野菜を作っており、畑仕事も得意。二人とも釣りも趣味だが、現在は釣りよりも石見銀山の観光ガイドに熱中している。

## 修美さん・信視さんの選ぶ おすすめ銀山スポット

### 第1位「龍源寺間歩」

石見銀山のメインスポット  
幕府が掘った全長約600mの坑道

### 第2位「佐毘売山神社」

銀鉾床の上に鎮座している神社  
越本さんおすすめのパワースポット

### 第3位「鉾脈」(龍源寺間歩周辺)

岩盤の隙間に鉾液が通り、冷え固まって鉾脈になる  
これを目印に坑夫は銀を採掘していた



▲鉾脈 (坑道から左斜め上にむけて)

もありましたが、海辺の掃除や祭りなどの自治会行事の誘いもあり、地域住民の歓迎がありがたかったそうです。

地域とのコミュニケーションを上手にとることで人生が豊かになります。

親密な人との関わりを求めて大田市へ移住を考えるとみてはいかがでしょうか？

### 【空き家活用促進事業】

空き家バンクに登録のある空き家の改修費用や残存家財の撤去費用の一部を予算の範囲内で助成。

越本さんの住居も空き家活用促進事業を利用し、家屋の改修を行なっています。

※定住・移住のご相談や助成制度の詳細については下記までお問い合わせください。

【大田市政策企画部

地域振興課定住推進室】

電話：(0854)83-8029

FAX：(0854)82-5885

Email: o-tiiki@iwamigin.jp